

卷頭言

2026年新春のご挨拶

一般財団法人 日本建築総合試験所
理事長 川瀬 博



2026年の新春を迎え、皆様方には平素より当法人の諸事業に対しまして、ご理解とご高配を賜っておりますことを深く感謝申し上げます。

昨年はGBRC創立以来初の試みとして、5月29日に試験研究センターの「オープン・ラボ」なる施設公開イベントを吹田本部・池田事業所にて開催いたしました。また、それに先立ち5月28日には、中之島会館にて「1995年兵庫県南部地震から30年、最新の強震動予測技術で明日の関西の揺れを考える」と題して特別セミナーを開催いたしました。おかげ様で多数の方々にご来場いただき、盛況のうちにこの2つのイベントを終えることができました。そのセミナーに際しましては特別講演をして頂きました京都大学名誉教授の入倉孝次郎先生と岩田知孝先生には改めて御礼申し上げます。

昨年はまた4月13日から6ヶ月間夢洲会場にて大阪・関西万博が開催されました。当初は前評判もそこそこで出足が鈍かったのですが、実際に足を運んだ方々の評判は頗る高く、終わってみれば2,500万人以上の一般来場者数となって1970年の大阪万博に次ぐ第二位の盛況ぶりとなり、成功裏に幕を閉じました。当法人は大屋根リングを始めとする多くのパビリオン・施設の構造設計審査・確認申請等のお手伝いをさせていただき、微力ながらもその成功に貢献いたしました。当法人が関係した物件のポイントを、機関誌GBRCの201号・202号の特集として、各設計担当機関からご紹介していただきましたのでご覧いただければ幸いです。

さて2022年に2030年までの中長期計画として我々が策定しましたVision and Action plan (V&A) 2030が今年度で丁度折り返しの時期となり、現在計画期間前半の進捗状況の確認と必要な見直し作業を進めているところです。経営状況はここ2年間で順調に改善に向かいつつあり、目標達成の目途がついてきたところですが、それには誠に不本意ながら昨今の経費の増大を背景に漸次進めてきておりますところの受託料金の改訂が大きく寄与していることは間違ひありません。改めて顧客の皆さまの変わりないご支援に深く感謝申し上げます。当法人としては目標としていますところの、既成概念に捉われないマインドの醸成と変容する社会ニーズの的確な把握に基づいて新しい価値を創造する事業展開を積極的に進める、というV&A2030の基本方針をこの機会に改めて全役職員と共有し、よりレベルの高いサービスの提供を引き続き目指していく所存です。

折しも昨年10月には高市新政権が発足し、矢継ぎ早に様々な施策を打ち出されています。そのスピード感はこれまでの政権には見られなかったものです。当法人においてもそのスピード感に負けないように、本年も役職員が一丸となって、お客様のご満足と価値創造に努力してまいりますので、より一層のご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。